

問1 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。（2019年 千葉県公立入試 類似）

1. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた
2. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった
3. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった
4. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された

問2 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものととして正しいものはどれですか。（2026年 千葉県公立入試 類似）

1. 土偶は縄文時代に作られ、豊穣や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。
2. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。
3. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。
4. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。

問3 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
2. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された
3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した
4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

問4 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡
2. 吉野ヶ里遺跡
3. 登呂遺跡
4. 岩宿遺跡

問5 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）

1. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
2. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。
3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。
4. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。

問6 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
2. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
3. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。
4. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。

問7 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。（2024年 山形県公立入試 類似）

1. アイヌ民族
2. 琉球民族
3. 渡来人
4. 蝦夷（えみし）

問8 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とそれに用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。（2019年 佐賀県公立入試 類似）

1. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。
2. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。
3. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。
4. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
**気候が温暖になり、海面が上昇したこと
で日本列島は現在の姿に近づいた**
- 約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在の
ような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
- 問2** **答え 1**
**土偶は縄文時代に作られ、豊穡や魔除け
を祈る呪術的な道具であったが、はにわ
は古墳時代に作られ、古墳を飾り立てる
ためのものであった。**
- 縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳
時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられまし
た。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生
じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
- 問3** **答え 1**
**磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自
然環境に合わせた定住生活が行われた**
- 縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るた
めの弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、
新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
- 問4** **答え 1**
三内丸山遺跡
- 青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点
集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置
が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿
遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
- 問5** **答え 1**
**氷河期が終わり温暖な気候になる中で、
石をみがいた磨製石器や土器が使われ始
めた。**
- 約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住
生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保
存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は
縄文時代の大きな技術的特徴です。
- 問6** **答え 1**
**豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・
漁労を行いながら大規模な定住生活を営
んでいた。**
- 三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧
みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利
用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見
は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたこ
とを証明しました。
- 問7** **答え 1**
アイヌ民族
- 北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿る
と考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源
となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽など
もアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
- 問8** **答え 1**
**狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保
存したりするために、縄目などの文様が
ついた土器が用いられた。**
- 縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛ん
になった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に
縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、
その後の弥生時代の特徴です。